

報恩抄

現代語訳①

御文①

御書新版……214 字 4 行目〜11 行目
御書全集……294 字 9 行目〜15 行目

いかんがせんと疑うところに、一つの願を立つ。我、
八宗・十宗に随わじ。天台大師の専ら經文を師とし
て一代の勝劣をかんがえしがごとく一切經を開きみ
るに、涅槃經と申す經に云わく「法に依って人に依
らざれ」等云々。「法に依って」と申すは一切經、「人
に依らざれ」と申すは、仏を除き奉って外の普賢菩
薩・文殊師利菩薩乃至上にあぐるところの諸の人師
なり。この經にまた云わく「了義經に依って不了義
經に依らざれ」等云々。この經に指すところ、「了義經」
と申すは法華經、「不了義經」と申すは華嚴經・大日
經・涅槃經等の已今当の一切經なり。されば、仏の
遺言を信ずるならば、専ら法華經を明鏡として一切
經の心をばしるべきか。

どうすればいいかと思ひ迷つて、私は一つの誓願を立てた。「自分は八宗や十宗には従わないでおこう」と。天台大師（智顗）が經文だけを師匠として釈尊の全經典の勝劣を判断したように、あらゆる經に目を通してみると、涅槃經という經には「法を依りどころにしない。人を依りどころにしてはならない（依法不依人）」とある。「法を依りどころにする」の「法」というのはあらゆる經のことであり、「人を依りどころにしてはならない」の「人」というのは、仏以外の、普賢菩薩や文殊師利菩薩から始まって、先に挙げた諸宗の學者に至るまでの人々のことである。

この涅槃經には「了義經を依りどころにしない。不了義經を依りどころにしてはならない」ともある。この經の趣旨からすると、「了義經」というのは法華經であり、「不了義經」というのは華嚴經・大日經・涅槃經などといった、已今当のあらゆる經である。

それ故、仏の遺言を信ずるなら、法華經だけを曇りのない鏡として、あらゆる經の真意を知らなければならぬのである。

御文②

御書新版……216頁5行目〜12行目
御書全集……295頁17行目〜296頁6行目

法華經の法師品に、釈迦如来、金口の誠言をもつて五十余年の一切經の勝劣を定めて云わく「我が説くところの經典は無量千万億にして、已に説き、今説き、当に説くべし。しかもその中において、この法華經は最もこれ難信難解なり」等云々。この經文は、ただ釈迦如来一仏の説なりとも、等覺已下は仰いで信すべき上、多宝仏東方より来つて「眞実なり」と証明し、十方の諸仏集まつて釈迦仏と同じく広長舌を梵天に付け給いて後、各々国々へ還らせ給いぬ。「已今当」の三字は、五十年ならびに十方三世の諸仏の御經一字一点ものこさず引き載せて法華經に対し、て説かせ給いて候なり。十方の諸仏この座にして御判形を加えさせ給い、各々また自国に還らせ給いて我が弟子等に向かわせ給いて「法華經に勝れたる御經あり」と説かせ給わば、その所化の弟子等信用すべしや。

現代語訳②

法華經の法師品には、釈尊が眞実の言葉によつて、自ら五十年余りにわたつて説いたあらゆる經の勝劣を判定して「私が説く經典は無量千万億であり、すで（已）に説いたし、今も説いているし、これからまさ（当）に説くだろう。これらの中で、この法華經こそ最も難信難解なのである」とある。

この經文は、釈尊一仏だけの説であつたとしても、等覺の菩薩以下のすべての人々は尊重して信すべきである。その上、多宝仏が東方から来て、釈尊が説かれたことを「眞実である」と保証し、十方の世界の仏たちも集まり、釈尊と同じように広く長い舌を梵天まで伸ばして正しさを保証されて、その後、それぞれ自分の国土へ歸られたのである。

この「已今当」の三文字は、釈尊の五十年にわたる諸經、また十方の世界の三世の仏たちの經を一字も残さずに挙げて法華經と対比して説かれたものである。

それに対して十方の世界の仏たちが、この法華經の説法の座で保証のために署名されたのに、それぞれ自らの国土に歸られてから、自分の弟子たちに向かつて「法華經より優れた經がある」ともしお説きになったら、その教えを受ける弟子たちは信用するだろうか。